

1998年 1月10日

* わたしが動く *
* なにかが変わる * 参画プロデュースセミナー *
* 第 10 号 *

講師のプロフィール

よしだ きよひこ

吉田清彦 さん

「コマーシャルの中の男女役割を問い直す会」
世話人
フリーライター
喫茶学校講師



● 経歴・活動歴等

1944年兵庫県生まれ。53歳。神戸市立外国語大学中退。

ネットワーク活動として、現在、「コマーシャルの中の男女役割を問い直す会」の他に、「放送と女性ネットワーク」「確信犯？シングルの会」の世話人をつとめる。また「FCT＝市民のテレビの会」「メディアと女性フォーラム」「メンズリブ研究会」などのネットワーク活動にも参加。

また、自治体が主催する講座などで、「テレビCMの中の女と男」「メディア・リテラシー」「シングルで生きるということ」「スリムな暮らし一年収150万円で暮らす法」「健康で楽しい老後のすごしかた」「男性のための家事としての料理教室」などのテーマで講師をつとめる。

95年から、「女と男」「教育と暮らし」を考える、読者参加型のミニコミ『屋台村通信』を編集・発行。

現在、神戸新聞に「せいかつエッセー」を連載中。

● 主な著書（いずれも共著）

『男たちの「私」さがし ジェンダーとしての男に気づく』（かもがわブックレット）

『性の商品化とメディア』（自費出版）

『メディアがつくるジェンダー—日独の男女／家族像を読みとく』（新曜社）

吉田さんに ちょっとインタビュー

●ライターとして心掛けられていることは？

- ・自分が興味のある分野以外の仕事はなるべく引き受けないようにしている。
- ・読む人の立場に立って、分かりやすい（意味の通りやすい）文章を心がけている。
- ・文章を書き上げたあと、一晩寝かして、翌日もう一度目を通して、筆を入れる。
- ・締切はできるだけ守る。

●最近の香川の様子はどのように見えますか？

- ・関西（神戸・大阪）にいと、香川県の情報はほとんど入ってこないの、あまりわかりません。（もともと郷土意識があまりないことにも原因があるのでしょうか）

●市民活動を長続きさせるコツは？

- ・社会的使命とか義務でするのでなく、自分たちの活動を楽しむという発想をもつこと。ちなみに、「コマーシャルの会」のモットーは「楽しみながら、息長く」です。
- ・組織をできるだけゆるやかにする。ちなみに、「コマーシャルの会」は会員制をとらず、代表も置いていません。（世話人数名で運営）
- ・若い人が参加しやすいように、20代、30代の人を前面に立て、40代以上のはできるだけ裏方に回るようにする。

●吉田さんにとって「いい女」「いい男」とは？

- ・しっかりとした自分の考えを持っていて、行動力のある女性が私にとって「いい女」です。
- ・偉ぶらずに、フットワークの軽い男性が私にとって「いい男」です。
- ・女、男にかぎらず、ユーモアのセンスがある人、あくせくしていない人（マイペースで生きている人）が好きです。

●最近気になっていることは？

- ・子どもたちの置かれている環境（学校、家庭、地域などで「逃げ場」「隠れ場」のないこと）。
- ・いろいろな意味で「いのち」が大切にされなくなってきていること。
- ・「社会性」が失われていること（みんながバラバラに切り離されて生きていること）。

●お勧めの本は？

- ・『女性学研究』第5号（萩原弘子「表現の不自由、不平等とは」、畑 律江「ニュースの文脈から見えてくるセクシズム」、村松泰子「メディアへの女性のアクセスとは」、田川建三「表現という暴力」を掲載）（大阪女子大学女性学研究センター）
- ・鈴木みどり編 『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』（世界思想社）
- ・猪熊弘子『女たちの阪神大震災』（朝日新聞社 ASAHI NEWS SHOP）
- ・川名紀美『時代はセックスレス』（朝日新聞社）
- ・鎌田 慧『ドキュメント家族』（ちくま文庫）
- ・辺見 庸『もの食う人びと』（共同通信社）
- ・平田 豊『あと少し生きてみたい』（集英社）
- ・竹中文良『がんの常識』（講談社現代新書）
- ・伊田広行『性差別と資本制—シングル単位社会の提唱』（啓文社）